

時局日誌 [五]

T H 生

十二月一日 滿洲國に於ける治外法權の撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權の移讓に關する條約(十一月五日新京に於て調印)を實施す。

政府はフランコ政權をスペイン國の正式政府たるものと承認す。

太湖西岸の宣興を占領した千葉、山田部隊は更に西の方深陽へと向ひ到るところ敵を擊破しつゝ進撃中であつたが之より先二十七日太湖南岸の長興から一路深陽へ進撃中だつた山本部隊が三十日夜同地に達し一日朝之を占領したといふ、これによつて敵の南京防衛の第二陣前面の

中央部が破れたことになるので正に南京の戦慄である。京滬線を傳つて常州から大手筋の丹陽へ迫る大野、片桐諸部隊は丹陽停車場を占據した。又常州から長臨坂部隊は西方驅した十里の要地金壇城を衝き一日午後之を占領するに至つた。

海軍空襲部隊の精銳は一日江陰對岸の天理港要塞に對して終日猛爆撃を續けたこの日陸軍飛行隊では海軍機とも協力して深水、金壇、丹陽等の各前線に爆彈の雨を降らせ殊に丹陽附近では敗走中の敵に殲滅的の打撃を與へた。

十二月二日 朝九時頃わが海軍航空隊は大

舉して廣東市外の天河、白雲山の兩飛行場を襲ひ最近漢口から空輸されたばかりのソ聯製の八機や香港から屈いた十機などで再建をはかつてゐた同地の敵空軍は一舉にして滅茶々々にされてしまつた。敵機が珍しく上海に姿を現したので午前

十一時頃海軍機〇〇機は之を追うて南京に飛んで行くと約三十機を發見、こゝに南京上空に於ける空前の大空中戦となつたが、その結果は敵戦闘機十機、重爆撃機三機を確實に撃ち落し我が方は全部無事に基地に歸還した。この日陸軍機も午後二時初の南京空撃を敢行、地上にある

爆撃機十數機を爆撃し更に空中戦で數機を撃墜した。

廣徳より北方郎溪に向けて進撃中の○部隊は二日午前十時同地に程近い長樂鋪まで進出した、廣徳より宣城に向ふ部隊は次第に之に近づきつゝあるが同地の敵は早くもその西南の涇州方面へ逃げつゝある。常州より西進して金壇を奪取した我軍は二日未明完全に之を手に收め又江陰要塞の一部でなほ頑張つてゐた黃山砲臺は兩角田代組と倉林、添田組との協力を以て之を占領し終り且江陰縣城入口の黃田港も續いて我軍の手に落ちた丹陽停車場を占據した我が軍は二日朝來激烈な市街戦を展開中である斯く南京攻略の前哨戦はどの方面でもグ／＼抄どつてゐる。そこで我が空中偵察によると南京附近に集結の敵の大部隊は續々蕪湖方面へ動いて慌しい光景を呈してゐるといふ。

十二月三日

南京戦線安徽の郎溪は豫期通り三日午前七時わが軍の手に歸した。○

部隊は占領後間もなく北方の溧水に向つて續進した一方溧陽は二日完全に占領し終つたので更に溧水に向け進撃を續けてゐるそれから京滬線上の丹陽も前日の市街戦を経て三日未明完全に片桐、大野等の諸部隊によつて占領されてしまつた。金壇も二日に至つて完全に占領してわが軍の入城を見た。次は溧水の占領によつて丹陽、金壇、溧水から轡を並べて南京の最後の防禦線、句容鎮江の堅陣へと押寄せる段取りで丹陽占領後の部隊は早くも句容へ向つてゐる。

空軍活躍海軍航空隊は二日の南京大空襲に續いて三日も敵機全滅の意氣込みで午後二時大舉出動し大校場飛行場に爆彈の雨を降らせた、陸軍機がこれと前後して出かけて行つた。時には敵機十數機現れたのでこれと空中格闘を演じた後八機

ばかりを撃墜した又海軍航空隊は昨朝廣東と香港對岸の九龍間の英國關係の鐵道廣九線と粵漢線の沿線を爆撃した。それから北の方では二日陸軍機が京漢戦線の前線彰徳の東方地區に集結中の大部隊を數ヶ所において爆撃を行つた。

上海租界内に今なほ殘存してゐる。抗日分子や租界當局に對する示威の意味を含めたわが軍の大打進が三日堂々と行はれた、武装軍人の通行すら許されなかつた租界では正に空前のことである。このピツク・パレードが佛租界を経て共同租界に入り南京路を行進中、百貨店新々公司前に突然兇漢が現れて爆彈を投げつけたので行進中のわが勇士三名と警戒中の領事館巡查一名が負傷する騒ぎが起つた、一時行進を止め非常警備についたが犯人は現場で撃たれやがて絶命した、間もなく大打進は豫定通り續けられて輝かしい記録を作つた。一方事件發生と共にわが

軍と工部局の代表者との間に交渉が續けられその結果今後日本軍は必要の場合租界を自由に通行し得ること、抗日事件に對しては獨自行動をとり得ること等四項目の覺書を交換し問題は立どころに一先づ解決した。

十二月四日 母子保護法（三月三十一日版

一九號）施行期日（勅令七〇六號十三年一月一日）及母子保護法施行令（勅令七〇七號）竝母子保護法施行規則（内務省令五號）發布

南京を指してわが各部隊の進撃振り最後のヘビーの調子でいよいよ以て猛烈だ、丹陽方面から句容へ進撃の部隊は街道筋の各要地を奪取しつゝ進んで四日午後五時過ぎには早くも句容の東郊外に達しクリークを挟んで交戦中といふ敏捷振りである。深陽方面から深水へ出てゐる〇〇部隊は磨盤山に沿うて進み四日午後五時半には深水縣城に殺到、直に之を

占領して日章旗を掲げ續いて殘敵を掃蕩中である。一方郎溪を占領して北進を續ける〇〇部隊は四日午前中に丹陽湖畔の水陽鎮を占領した、こゝから蕪湖までは僅に西方十里に過ぎない、之によつて蕪湖は勿論その前線をなす宣城は早速危険となつたわけであるがわが海軍航空隊の〇〇機は四日早朝から宣城を襲撃して終日猛爆撃を繰返したものである。かくて南京は今や前面からのみでなく背後からも脅かされわが軍に包圍される形となつて來た。最後の運命が近づいて來た慌しい情勢である。

北支では三日太原南方の祁縣に向けて小敵が襲撃を企てゝ來たが我が軍のため忽ち反撃されて引下つた。

四日軍航海空隊は宣城の空襲の外に例の南郷大尉が指揮して正午頃南京に飛んで飛行場を爆撃したが別隊南は京の西北方の滁洲に飛びこゝでも二機を撃墜し待

機中の敵機十一臺を爆撃して大打撃を與へた、この日も敵の兵糧線粵漢鐵道の空襲が續けられ朝來その沿線の各地を歴訪した。

十二月五日

丹陽方面から四日夕刻既に句容の東郊に迫つた我が軍は同夜半強襲して一舉に内部の敵を屠り昨未明之を占領するに至つた。句容は人も知る如く飛行場をも備へた南京防衛陣の中堅である。

句容占領後のわが軍は南京方面へ敗走の敵を追撃して南京へ〜と押進んで行く深水を陥れて南京へ進む矢ヶ崎山本組は五日之も南京東南方十里の烏山鎮を越えた、又郎溪を占領して後水陽鎮を抜いた長野、山田（鐵）組は更に前進を續けて南京と蕪湖との側背面に向つてゐるので南京はいよ〜以て三方からグ〜と壓迫されて居る。

江陰砲臺附近で陸軍と協力してゐたわが〇〇戦隊は昨日先に敵が船を沈めて

封鎖してゐたのを附近の江面からその一部を取除いたので同日砲艦〇〇は事變以來初めてそれより、湖江して對岸の天生砲臺と砲戦を交へた後その附近で先におが空軍の爆撃により火を發し坐洲中の敵巡洋艦「寧海」を分捕つた、同艦は日本製で而も支那海軍第一の精銳である。

海軍航空隊はソ聯製の飛行機が多數集結してゐるとの噂ある甘肅省の蘭州飛行場を四日午後突如襲撃して大小十四機を爆碎し更に立向つて來た二機と交戦して撃退の後無事引揚げたがこの結果同根據地にある飛行機が全部ソ聯製であることが確認された、五日も海軍機は午前南京故宮飛行場を爆撃した別働隊は杭州や安徽省の滁州、徽州、寧國等に、又廣東方面では廣九線や粵漢線の沿線に爆弾をバラ撒いた。

十二月六日 丹陽から句容に向つた部隊は之を占領して後も前進を續けて四日午後

三時には既に南京を距る東南約五里の索墅鎮を通過した旨の公報があつた。が六日はそれより更に進撃して上方鎮を経て午後一時には南京東方僅に一里餘の高橋門に達した。一方金陵方面から句容の線を突破して右翼陣として進出する部隊は新塘市に出で前方の湯山（湯水鎮）附近の高地より抵抗し來る敵に對し攻撃中でわが砲兵陣は早くもその偉力を發揮しつゝある又深水を占領して後烏山鎮を破り左翼陣として南京へ攻め上郎部隊はその南郊外の要害林陵關を猛攻中とある更に又郎溪より南京の背後を衝くべく進撃中の部隊は固城湖を右にして水陽鎮を抜き既に蕪湖東方約六里の地點にまで迫つたとの報道だ、それから蕪湖を更に側背より衝かんがために宣城の奪取に力闘中であつた部隊は五日に至つてその附近山地の頑敵を撃退して六日朝先頭の戰車隊は宣城に突入した。

陸軍の驀進振りに海軍側でも飽まで協力して六日は早朝よりその空軍力を總動員して南京附近の敵陣地に痛烈極まる爆撃を敢行する一方その退路を斷つべく對岸の浦口に對しても致命的の打撃を加へた。更に同様の目的から蕪湖に飛んで各軍事機關を猛爆して火災を起させそれが爲蕪湖も混亂の狀態にある。機上よりの偵察によれば、南京全市には殆ど人影なく死の都と化してゐるといふ、南京の運命の日が近づいて來た昨日松井、長谷川の陸海司令官に川越大使を加へた三首腦會議が上海總領事館において開かれたのは頗る重要な會合である。

十二月七日 活動寫眞の興行時間（三時間以内）及フィルム（の長さの制限（無聲は四、五〇〇米、發聲は五、〇〇〇米）に關する件（内務省令第五五號）公布施行。攻撃開始南京攻略の幕は遂に切つて落された。東北から進む部隊は七日南京を

さる十八キロの揚子江岸に近い天險棲霞山の線に出て句容より西に廻り土橋鎮、淳化鎮を進んだ部隊は七日朝南京東方八キロの青龍山に、又深水方面より寄せた部隊は祿口鎮を経て南京より十五キロ南方の要害方山にそれぞれ進出してこゝに南京攻略の陣形が整つた實に南京總攻撃は七日午後一時股々たる砲兵陣の巨砲の響と共に始まつた、郊外一帯の堡壘に據る敵はこゝを先途と抵抗する、南京城東側の中山門より郊外の高橋門に通ずる道路附近の家屋は火を發して燃えてゐる、海軍航空隊に陸軍飛行隊に渡洋部隊も參加して七日正午より總出で南京郊外で抵抗中の敵に最大級の爆撃を敢行した。

一方宣城は七日朝に至つて遂に完全に我が手に歸し藤山、野副、小堺、片岡の各部隊は息もつがずに蕪湖へと前進して夕刻迄にその半ばを突破していよゝ蕪湖を脅かし延いて南京の敵を牽制し始めた。

陸海軍機が南京で大活躍を演じた外に海軍機はこの日蕪湖にも飛んで敵部隊を猛撃したが更に安徽省の首都安慶を空襲して飛行場を爆撃、又別隊は江陰對岸の砲臺をも爆撃した。なほ六日北の陸の荒鷺は黄河を越えて河南省の首都開封を初めて襲撃し北支作戦の本據と見られる同地の軍司令部を爆撃した。

十二月八日 愈々南京最後の日は近づき、南京郊外は激戦の眞最中である。東部方面では湯山附近の敵が屈強の高地に據つて抵抗を續けてゐるので野田、片砲、大野等の部隊で包圍攻撃中だが助川部隊はそれより前進して紫金山の敵と交戦中である。山麓の中山陵附近の建物は敵のために焼拂はれ盛んに燃えてゐる。南部方面では句容から索墅鎮を突破した下枝脇坂等の諸部隊は八日午後三時頃南京街道を扼する淳化鎮の敵を撃退して之を占據し更に青龍山附近の高地を攻撃中だ西方方面では深水から進んだ千葉、山田の諸隊は秣陵關の險を抜いて牛首山の堅陣に向つて之亦激烈な山岳戦を演じてゐるのである。この歴史的攻略戦に於てわが中島中將は七日午後名譽の負傷をした。宣城を占領後蕪湖に向つて猛進撃を續けてゐる片岡、小堺の部隊は七日の灣沚鎮通過に續いて八日夕刻には清水河とて蕪湖の東方僅に二里の地點まで迫つた、一方郎溪から水陽鎮を経て丹陽湖を渡つた長野、山田部隊は八日突如として當塗の東南三四里の地點に現れたものだ。當塗は揚子江岸の要衝で蕪湖よりも南京に近いので南京は愈背後も危険に曝されるやうになつた。丹陽から北を指して揚子江岸にある江蘇省首都鎮江へ進撃中であつた花谷、安達部隊は八日午前九時之を占領した。敵は退却前例の如く火を放つたのでなほ盛んに燃えてゐる。添田、倉林

等の部隊は八日未明江陰附近から揚子江を渡り海陸空軍や軍艦の掩護の下に對岸に敵前上陸を敢行して天生砲臺を奪取し尙その背後の靖江を攻撃中である。揚子江北岸に初めて我が軍靴を印したわけだこの結果揚子江航行は一先づ安全となつた。

十二月九日 南京攻略戦は益々最高潮に達した。東よりの寄手として湯山方面から紫金山へと進撃する大野、野田、片桐の諸部隊は八日既に紫金山東方二里の麒麟門に達したが、同方面の敵は夜に入つて退却を始め同地は九日朝わが軍の手に落ちたので南京城まで一里半となつた。わが片桐、助川等の各部隊はこれより更に前進して紫金山麓の中山陵附近の敵を攻撃しつゝ漸次南京東城の大門中山門に近づきつゝある。東南より攻め上つた脇坂、下枝、富士井、伊佐の諸部隊は南京街道廻側の高地の敵を攻撃しながら進んで九

日朝南京城外にあるお馴染の大校飛行場に達し午後には更に南京城の東南隅の光華門へと進んで行つた。又南より迫る長谷川、竹下の部隊は八日夜戦を以て遂に牛首山及びその附近を占領し、戦車隊は九日午後通濟門に近づき、砲兵陣は南門の中華門に近い雨花臺方面を猛撃してゐる、かくわが包圍軍が三方より城壁近く詰寄る一方わが空軍は地上部隊の突撃路を作るべく砲兵隊と協力して城壁破壊のため猛撃を行つた。松井最高司令官は九日正午南京防衛司令唐生智に對し飛行機で投降勸告狀を投下させその回答を待つため十日正午まで南京攻略の手を緩めることとなつた。

勸告文 「日軍百萬既に江南を席卷せり、南京城は將に包圍の中にあり、戦局大勢より見れば今後の交戦は只百害あつて一利なし、惟ふに江寧の地は中國の舊都にして民國の首都なり、明の孝陵、中

山陵等古跡名所蟄集し宛然東亞文化の精髓の感あり、日軍は抵抗者に對しては極めて峻烈にして寛恕せざるも無華の民衆および敵意なき中國軍隊に對しては寛大を以てしこれを冒さず、東亞文化に至りてはこれを保護保存するの熱意ありしかして貴軍にして交戦を繼續せんとするならば南京は勢ひ必ずや戦禍を免れ難し、而して千載の文化を灰燼に歸し十年の經營は全く泡沫とならん、よつて本司令官は日本軍を代表し貴軍に勸告す、即ち南京城を和平裡に開放ししかして左記の處置に出でよ

大日本陸軍總司令官 松井 石根
本勸告に對する回答は十二月十日正午
中山路句容道上の歩哨線において受領すべし。もしも貴軍が司令官を代表する責任者を派遣する時は該處において本司令官代表者との間に南京城接收に關する必要の協定を遂ぐる準備あり、若しも該指

定時間内に何等の回答に接し得ざれば、日本軍は己むを得ず南京城攻略を開始せん。

宣城より猛進撃を續けてゐた藤山、野副、小堺、片岡、淺野の各部隊は九日朝蕪湖の南郊外に達し直に攻撃に移つたが午後五時蕪湖は遂に陥つた。長野、山田の奇襲部隊は昨夜當塗の東方に出で、更に岡本(鎮)部隊は蕪湖街道に現れ南京に近く西善橋その他南方の要地を占領していよゝ南京の退路を遮断するに至つた。海軍航空隊は九日午後長驅して江西の首都南昌を襲撃し待機中のソ聯機約四十機の内約二十機を爆碎して立向つて来た約二十機と壯烈なる空中戦を演じた末十六機までを撃墜して大勝利を収めた。

十二月十日 教育審議會設置に付き優渥なる上諭頒發せらる

上諭
朕文物ノ進運及中外ノ情勢ニ鑑ミ國本ヲ

無窮ニ培ヘンガ爲内閣ニ委員會ヲ設置シ教育ノ内容及制度ヲ審議シ其ノ刷新振興ヲ圖ラシムルノ必要ヲ認メ教育審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

教育審議會官制(勅令七一號)

教育審議會官制

第一條 教育審議會は内閣總理大臣の監督に屬し其の諮問に應じて教育の刷新振興に關する重要事項を調査審議す
教育審議會は前項の事項に付内閣總理大臣に建議することを得
以下省略

とうゝその時が来た。我が降伏勸告に對し南京城内の敵將の回答は十日正午の期限までに遂に來らず、却つて朝來我に向つて攻撃を續けてゐる有様とて松井最高指揮官は己むなく三方より押寄せ命を待つ各部隊に對し愈總攻撃令を下した、午後一時攻略の火蓋が切られた。十

日朝紫金山を占領した大野、野田部隊は東側正面の中山門に殺到し協坂、富士井、伊佐、人見下枝の各部隊は大校飛行場より東南の光華門、通濟門、武定門方面へ、岡本(鎮)部隊、長谷川(正)部隊は大迂回の後昨朝雨花臺を占領して後岡本(保)部隊と合して中華門(南門)攻撃に當り、長谷川、竹下部隊は命令と共にドツとばかりに各城門目がけて突進して行つた、一方片桐、助川部隊は紫金山から玄武湖を廻つて突如として南京の江岸下關に出で敵の揚子江への退路を断つた、この間紫金山、青龍山、雨花臺等の附近の高地に放列布をいた砲兵隊は天地も破れんばかりの砲撃、陸海空軍また敵の頭上を亂舞しつゝ爆撃に掃射に全力をあげての協力である。敵は死物狂ひの抵抗を續けてゐるがわが威力ある武器と勇猛果敢の突撃とに忽ち破られ午後五時頃光華門はわが名譽の協坂部隊により奪取する所とな

りこゝに感激の日章旗は翻つた。火は各所に上り夜中悽愴の光景を呈してゐるが、歴史ある首都の一角は遂に我軍の占據に歸した。十日山西省太原に於て各縣代表及び要人等參集して全省縣民代表大會を開き山西省臨時政府を樹立する旨を決議し同時に宣言を發表した。日滿兩國との親善提携及び防共、國民黨撲滅を根本方針としたものである。

十二月十一日 南京總攻撃第二日の十一日は各包圍軍の奮戦により更に戦果を擴大することが出來た。脇坂部隊に連なる伊佐部隊は奮ひ立つて十一日午後一時過光華門の東南高地を占領して城壁上の敵と目睫の間に猛烈なる射撃戦を交へて居り、下枝部隊も亦同時刻に東南角に迫つた、紫金山の東北側より城壁に迫る野田、大野、片桐、助川等の各部隊は昨朝來猛進撃を續けて相前後して和平門、太平門附近に迫り、大野部隊の一部は十一日朝

紫金山麓の中山陵を占據したが續いて同部隊及び富士井部隊は戦車隊と共に中山門の敵にぶつかつて行つた、中華門（南門）方面に向つてゐる長谷川、岡本（保）部隊はその附近に於て激戦中で竹下部隊は南京城の西南角へ進撃を續け岡本（鎮）部隊は之と連繫しつゝ城西の莫愁湖畔で敵と接戦激戦す。この日早朝より紫金山及び附近一帯の高地に布かれた大放列より撃ち出す巨弾は悉く命中し恐るべき威力を發揮し海軍航空隊は午前午後とも城内の上空に敵の亂射する中を徹底的に爆撃を加へたが、秋田部隊、小金丸部隊は城外の敵トーチカを風潰しに爆破し西南角の城壁を崩しこゝに突撃路は開かれた又廣徳より進出した藤山、片岡、小堺、野副の各部隊により十日夜の蕪湖占領と日と同じうして更に南京に近い當塗も長野山田部隊の手によつて陥つたが、同夜兩部隊はそこより揚子江を渡つて對岸に

上陸し烏江を急襲して之を占領、續いて津浦線へと急行してゐる。

十二月十二日 城南の高地雨花臺を占領した長谷川、岡本（保）、竹下、岡本（鎮）の各部隊は中華門（南門）と以西の各城門へ向つたが雨花臺に放列を布く砲兵隊の制壓射撃を受けつゝ前進を續け十二日午後零時頃山田工兵部隊の挺身爆破隊によつて南門城壁は爆破された。同方面に向つた長谷川部隊の緒方部隊はすかさず梯子を立てかけ彈雨の中を崩れた城壁を駆け上つて之を占領し、次で長谷川部隊は城内に進入した。我軍はこゝに初めて南城京内を蹂躪したので岡本保部隊も續いて突入して城内の敵の掃蕩に移つた、西南角方面に向つた岡本（鎮）部隊も十二日工兵隊により再度の爆破作業を受けた、後輕渡橋にて外堀を渡つて之亦城内へ進入した南京城一番乗の脇坂、人見部隊も昨正午過ぎ光華門より城内に進入し

始めた、この結果東南の光華門より西南の突角に至るまでの城壁はほゞ我が軍の手に歸し同時に同方面より城内戦を交へつゝ進撃中である。光華門の一番乗りをした伊藤善光少佐はその夜敵の夜襲を受け奮戦中遂に光華門の華と散つた。大手

の中山門へ向ふ富士井、伊佐、片桐、大野、野田の諸部隊の内中山陵附近の第二防禦線を突破した富士井部隊、その左翼の伊佐部隊は午後二時半より中山門の攻撃に参加した。〇〇砲の集中砲撃により遂に城壁に突撃路の孔が開いた、門内の敵は教導隊の精銳が必死の防戦として流石になほ頑強に抵抗を續けてゐる、前日來我が砲兵各部隊の夜にかけての猛撃によつて紫金山は噴火山となつたが山麓一帯物は凄しい山火事となり山中の頑敵は焼出されつゝある。海陸空軍は此日終日南京城内外紫金山對岸の敵に對して攻撃を繰返し揚子江を渡つて逃ぐる敵のジャンク

にも大爆撃を加へた、海軍の渡洋部隊は長驅して江西の南昌に飛んで爆撃し飛行場では待機中の十二機を大破し飛上つて來た二機を撃ち落した。

十二月十三日 外交事項記事禁止の件(外務省令二一號)

務省令二一號)

新聞紙法第二十七條ニ依り當分ノ内國交ニ影響ヲ及ボスコトアルベキ事項ニシテ外務大臣ヨリ示達セラレタルモノハ之ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年十二月十三日

外務大臣 廣田 弘毅

十三日午前三時頃大野部隊がまづこゝより突入して遂に同門を占領するに至つた

續いて富士井、伊佐部隊も鐵舟にて城壁前のクリークを渡つて城内に進入、同時に刻中山陵、孝陵等を完全に占據した片桐部隊も次で入城し潮の如く中山路の大通

りを中心に故宮飛行場方面へと進撃して行つた、中山門附近の大部分の敵はその時既に退走してゐたので戦果はグン／＼と延びて間もなく市街地に入つた。午後

二時より市街地掃蕩を開始したが殘敵の一部はなほ各所に抵抗するため刻くる市街戦を演じつゝ逐次占領地區を擴大して行つた従つて我が海陸空軍は午後二時以後爆撃を中止した、中央軍官學校、國民政府等相次いで大野部隊その他の諸部隊の手に歸した、一方前日來城南一帯より進撃を續ける友軍とによつて敵は次第に城内北部の丘陵地區に追詰められ我が攻略軍の城内掃蕩は忽ち成り遂に夕刻に至り茲に南京の占領を完結するに至つたのである。

十二月十四日 内務大臣馬場鏡一氏病氣の故を以て辭職し内閣參議海軍大將正三位勳一等末次信正氏内務大臣に任ぜらる。

北京に新政權が產れた「中華民國臨時政

府」である、十四日あの豪華な居仁堂で華々しく樹立式を擧げて同時に宣言文を中外に發表し (一) 政黨政治を排して民主政治を復活すること (二) 共產主義を絶對に排除すること (三) 東亞精神を發揚して友邦と仲よくやつて行くといふ新政府の指導精神を明かにした。

新政府は委員制とし當分主席を置かず委員等は王克敏、湯爾和、董康氏等舊北京政府代表の名流揃ひ親日黨揃ひ日滿との提携に大いに努めるといふ。我が天津軍では昨日新政府を支持する聲明を發表した。

海軍航空隊は十四日長驅して敵の空軍根據地南昌を襲ひ新舊兩飛行場にあつた四十機ばかりの敵機の内二十八機までの大量爆碎に成功し更に十數機と空中決闘を行つて七機を撃ち落した。

松井最高指揮官は安民の布告を出し市民は朝からテラホラ歸宅し始め、我が南

京總領事館には久し振りに日章旗がはためて死の都は早くも蘇生し初めた、わが〇〇艦隊の主力は旗艦〇〇を始め舳艫相ふくんで堂々長江を溯江して來つて昨十三日夕刻南京の玄關口下關に到着して投錨した、正に長江におけるわが海軍未曾有の壯事である。

十二月十五日 末次内務大臣は十四日親任式後、自分は内務行政に關しては全くの素人だ然し大に勉強して國家のため御奉公したい人或は何も知らぬロボツト内相と云ふかも知れぬが自分は懸命に勉強して間違ひなくやつて行くつもりだ、今の自分に期待してもらつてよい事は人事を公平にやるといふ事だ、由來内務省の人事はむづかしいもの複雑なもの聞いてゐるが、素人の自分には却つて公平にやれるのではないか、右せんか左せんかの時ではないのは勿論だが、さう理想通りにも行かない、已に決つた國策の線に沿つ

て時に右に偏し左に片よつてゐるかの觀を呈するかも知れぬがその方向に向つて一路邁進する事だと信じてゐる」と語られたが更らに此日朝登省し總員を會議室に召集し就任の挨拶訓示を與へられた。

我第一線部隊〇〇部隊南京入城式は十五日午後三時から晴れ上つた空の下で行はれた中山門内左側沿道に整列した部隊の捧統の中に〇〇部隊長を先頭に全部隊堂々中山門より入場、中山路を行進して式を終つた、〇〇部隊長は戦塵に陽焦けた緒顔に微笑みを含み終始黙々として朗かであつた、尙松井司令官の正式入場式は十七日の豫定である。

香港より歸國の途にある駐支英大使ヒューゲッセン氏は十五日シンガポールに寄港したが記者の質問に答へ左の如く語つた。

「予の遭難に對し貴國の御見舞を謝す身體は御覽の通り元氣ではや何の不安も殘

つて居ない、日支紛争解決といふことに關しては國際關係の複雑な現事態に於てさう簡単に結論出來ぬが、特に言ひたいのは日本が深刻に考へてゐるやうにイギリスは決して一方的に援助を考へて居るものでないといふことだ、かつ又予としては日支兩國の何れに關しても失望を感じてゐない、即ちイギリスの豫定としては圓滿に平和解決を希望するのみだ。

十二月十六日 鳥谷部隊は十六日午後一時衛輝(彰德南方二十里)を爆撃又鳥田部隊は同時刻林縣(彰德西方十里)湯陰(彰德南方五里)を爆撃して敵に徹底的損害を與へた、敵は宋哲元、萬福麟軍、中央軍の敗殘兵である。

十六日午前四時頃我が南市警備の飯塚部隊細田萬次上等兵は避難民收容區域内と覺しき方面より暴民のため拳銃にて狙撃され手頭に負傷した。

十二月十七日 中華民國の首都南京城に皇

軍の萬歳を凝結させて總攻撃に参加した陸海各部隊の歴史的南京入城式は松井陸軍最高指揮官及長谷川支那方面艦隊司令長官に引率せられて國民政府殿堂を中心に盛大裡に舉行せられた何たる歡喜ぞ何たる感激ぞ。

長谷川司令長官は内外記者團に對し次の如きコムミニケを發表した。

「今次事變は帝國の不擴大方針に拘らず支那側の挑戦により遂に上海方面に擴大せり、爾來鬪僅かに百餘日にして今日皇軍は支那軍隊を驅逐し中華民國首都南京を占領せり、歴史の入城を爲すに至りたるは固より御稜威の然らしむるところなるも尙帝國陸海軍將兵が正義に基く暴支膺懲の念に燃え陸に海に空に終始一貫渾然一體となりその作戰を貫徹せしによる、その間幾多將兵の職に履れ本日喜びに會へざるものに思ひを及ぼす時將として轉た感慨無量なるものあり、帝國は

今日の戰勝をもつて満足するものに非ず時局の前途は尙遠遠なり、帝國軍人は東洋永遠の平和のため國家の總意に應へ徹底的出師の目的の達成に努力するの信念に燃えつゝ、本事變發生以來帝國は第三國財産の保障に對しては多大の努力を拂ひ概ねその目的を達成しつゝありしに最近に至り米艦、英艦等に對し最も不幸なる事件の生起せる衷心遺憾とす、余は本事件に對し誠心誠意自ら爲し得る最善を盡しつゝあり。

阮滿洲國大使主催の滿洲國承認祝賀晚餐會は十七日午後六時から長くも閑院參謀總長官殿下御臨席の下に東京會館で開催されたアウリチ伊大使、カステイヨ西班牙公使、マレラ羅馬教皇使節、オット獨大使館附武官その他我が外務、陸海軍關係の名士約五十名列席、阮大使の滿洲國承認感謝の挨拶後來賓一同、滿洲國の將來を祝福して乾杯、同八時散會した。

蔣介石は十七日廣東軍に對し徹底的に抗戦すべしと嚴命した一方支那政府は南京防禦の中央軍三個師が主力から離れ日本軍の重圍に陥つたが多大の損害を殘し辛うじて日本軍の包圍線を脱して揚子江を渡河した旨發表した。日本軍飛行機は

十七日南昌の上空より傳單を撒布し同市を攻撃する旨宣言した。め住民は恐怖に襲はれ先を争つて避難し道路は家財を纏めて安全地帯へ急ぐ避難民で雜沓してゐる。

十二月十八日 鎮江より揚子江を渡河した倉橋部隊の先鋒は此朝揚子江北岸の六合を占領した。

南京に於ては江南戦線に於て護國の犠牲となつた忠勇烈士の英靈慰靈祭が盛大に舉行。

十二月十九日 十九日のA.P.通信社上海電は支那空軍損失は支那空軍飛行士の技術拙劣による所も多い旨左の如く報道した

「支那軍飛行士の技術拙劣で離着陸の際操作を誤つて破壊したものは既に百臺以上上つてゐるその他製米國爆撃機五臺戰闘機三十臺も同様操縦を誤つたため破壊され更に米國製造爆撃機五十臺は操縦士なく打棄てられてゐる。」

支那特派員リリー・アベック女史は南京陥落を前に逃亡する支那兵と共に漢口に着いたが女史が十二月初旬漢口から郵送した南京脱出記は十九日のフランクフルター・ツァイツング紙に掲載された。

「私は滿員の汽船に乗つて漸く漢口にたどり着いたが此處には未だ空襲警報も避難所もないのに驚かされた、南京から逃げて來た軍人達は防空施設を行ふ様躍起になつて叫んでゐる、然し上海から南京へ、南京から漢口へと落ちのびて來た避難民等は大抵諦めきつてを漢口去る日も遠くはないと觀念してゐるらしく漢口から重慶へ落ちて行くことは當然だとい

つた調子であるところではない漢口に來た外人記者達は「今度は西藏で會ひませう」など挨拶を交してゐる程だ。」

駐伊支那大使劉文島は本國政府の召還命令に接し歸國の途に就いた。

永野修身大將(聯合艦隊司令長官)が軍艦長門と一緒に爆沈されたとアメリカの新聞に掲載されたので首實檢の爲十九日夜大森の大將自宅にA.P.通信社のモーリン、U.P.通信社のマインシャルが、大將を訪問大將と固く握手した。永野大將曰く「僕は生きて居るパネー號事件は遺憾至極である」

十二月二十日 事變發生以來本日迄に判明せる彼我損害概數を陸載省から左の如く發表

北支方面
 【彼】遺棄死體四一、九七〇、死傷一六四、二九〇、俘虜(武装解除)七、三〇〇、鹵獲兵器(既發表)

【我戦死】 五、四一二

察哈爾方面

【彼】 遺棄死體二二、五〇〇、死傷九

〇、〇〇〇、俘虜一、〇〇〇、鹵獲兵

器、銃劍四、五〇〇、槍五〇〇、重機

五〇、火炮一五〇、各種刀一〇、〇〇

〇、小銃五、〇〇〇、輕機三五〇、彈

藥類無數

【我戦死】 四一二

山西方面（未調査）

上海方面

【彼】 遺棄死體八一、〇〇〇、死傷三

〇〇、〇〇〇、俘虜一、〇〇〇、鹵獲

兵器（小銃一四、二〇〇、輕機、一、

九〇〇、重機四八〇、迫撃砲七〇、山

砲四、野砲一〇榴、彈砲七、彈藥類無

數

【我戦死】 一〇、二二四

合計【彼】 遺棄死體一四五、四七〇、

死傷五五四、二九〇、俘虜九、三〇〇

鹵獲兵器小銃二三、四九六、銃劍一五、

九四〇、重機五七〇、輕機二、二九六、

刀一〇、四四三、火炮二〇八、自動車

類一一、其他彈藥器具類無數

【我戦死】 一六、〇四八

備考 本表は報告ありしものみに就き

調査せるものにして俘虜鹵獲兵器はな

は多數ある見込。

十二月三十一日 谷川、多田、福間の諸部

隊は朝來湖州南方〇〇〇附近に於て敗殘

兵を交へたる敵有力部隊と遭遇し激戦の

後之を撃退した。

南京陥落後の日本將來の軍事行動につ

いてタン紙は二十日の社説で次のやうに

推測論を試てゐる。

「極東に特殊の權益を保有する列強に對

して日本は意識的に挑戰する氣は全然な

いだらう、國際紛争を醸すことは日本が

自負する使命達成を危くするものである

南京陥落後の日本政府の意圖は既に其支

配下に歸した北支の足固めに努力を集中

して南支の廣大な地域に中央軍を深追ひ

する如き愚は演ずまい。蓋しそれに要す

る兵力と物質の犠牲は豫期以上に大なる

ものがあるからだ、他方極東の海軍増強

のため英國が地中海の海軍力を一部割い

た場合、そのためにフランスが地中海に

おいて過重された責任を取るかについて

英佛間に協議があつたとは考へられぬ。」

十二月二十二日 蒙古聯盟、察南、晋北三

自治政府外交史冒頭第一頁を飾る蒙盟聯

合委員會設立に關する協定の劇的調印式

は二十二日張家口察哈爾財政金融委員會

々議室において嚴肅裡に舉行された。

「蒙古聯盟自治政府察南自治政府、晋北

自治政府は蒙疆方面において利害休戚

を同うしもしくは相關聯する重要事項

に關して緊密なる協議統制を加ふるの

必要を認めるより茲に聯合委員會を構

成するに決し左の通り協定を締結せ

との前文で左の三氏が署名した

蒙古聯盟自 卓圖巴札布
治政府代表
察南自治政府代表 于 品 卿
晋北自治政府代表 夏 恭

十二月二十三日 石家莊西方の平山縣同東

方の無極縣附近には冀察遊擊隊の敗殘兵と自衛團の落伍者とが合流して掠奪を働いてゐたが、數日來討伐に向つた我が鯉登部隊のために掃蕩され十九日から二十三日にかけて平山縣が約三百、無極で二百五十、長壽村で約三百が歸順した。

十二月二十四日 米國パネー號事件に關しての正式回答を廣田外相からグルー駐日米國大使に手交した。

我が近藤飛行隊は二十四日午前〇〇機編隊をもつて太原東南方七十キロの官城鎮を爆撃同地に集結中の敵約千五百に對し徹底的打撃を與へた。

新任駐支ソ聯大使オレルスサー氏は赴

任の途去る十三日飛行機でモスコより新疆省迪化に到着したが二十三日漸く迪化を出發して二十四日午後三時甘肅省蘭州に到着、同大使は省政府主席朱紹長以下黨政軍代表多數に迎へられ直ちに省政府を訪問した。

十二月二十六日 長谷川支那方面艦隊司令長官は二十六日我軍の占領地及び守備區域内に對し左の布告を發した。

我軍の占領地域において左に掲げる行爲を爲したるものは軍律に照し死その他重罰に處す但し發覺前自首したるものはその罰を軽減し又は免除せらるべし

一、日本軍に對する抗敵行爲
二、間諜行爲

三、日本軍所屬者に對し危害を加へる行爲

四、日本軍の用に供する鐵道、電信、電話、道路、橋梁、水路等を損害しその他交通、通信、運轉を妨害する行爲

五、水道、電燈等を損害する行爲

六、日本軍の兵器彈藥その他軍用に供するものを盗み出し又は損害する行爲

七、日本を害する目的をもつて毒物細菌を使用する行爲、

八、その他日本軍の安寧を害し又は軍事行動を妨害する行爲

九、以上の行爲を企圖し又は教唆若くは幫助する行爲

十、以上の行爲を爲したるものを隠匿する行爲

昭和十二年十二月二十六日

支那方面艦隊司令長官

長谷川 清

十二月二十七日 貴衆兩院に於ては各陸海軍將兵に對し左の如く決議する所があつた。

貴院感謝決議文

支那事變勃發以來帝國陸海軍へ勇戰奮闘到ル處ニ敵ノ大軍ヲ擊破シ其ノ暴戾ヲ膺

懲ス即チ嚮ニ北支ル徇ヘテ北京ヲ確保シ
今又江南ヲ從ヘテ南京ヲ占據シ以テ大ヲ
捷奏ス其ノ勳績功業燦トシテ輝キ國威爲
ニ大イニ揚ル是レ固ヨリ陛下ノ稜威ノ致
ス所ナリト雖モ而モ我カ忠勇ナル將兵諸
士ノ力ニ由ル所甚タ大ナリ貴族院ハ茲ニ
其ノ勳勞ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表シ併セ
テ名譽アル死傷病者ニ對シ厚キ同情ノ悃
誠ヲ致ス

衆院感謝決議文

帝國陸海軍將兵諸士ハ今次支那事變發生
以來陸、海、空協力シテ北ニ南ニ神速進
撃連リニ勁敵ヲ勦討シ遂ニ敵ノ首都南京
ヲ攻略シ赫々タル武勳ヲ樹テ國威ヲ中外
ニ顯揚ス、是素ヨリ御稜威ノ然ラシムル
所ナリト雖モ諸士ノ忠勇ト勳功トハ國民
ノ齊シク感激措カサル所ナリ、今ヤ戦局
ノ擴大ニ伴ヒ、諸士ノ任務イヨ／＼重キ
ヲ加フ、時祁寒ニ際シソノ勞苦更ニ大ナ
ルモノアルヘシ衆議院ハ茲ニ院議ヲ以テ

諸士ノ勇健ヲ祈リ感謝ノ至誠ヲ表ス
右決議ス

敬弔決議文

衆議院ハ今次支那事變ニオケル名譽アル
戦死者ノ英靈ニ對シ敬弔ノ意ヲ表ス

十二月二十八日 政府は二十七日昭和十三

年度一般會計豫算綱要を貴衆兩院議員そ
の他關係方に面配布した、その概要は左
の通りである。

支那政府及び其の軍隊に對し膺懲の目
的を達成する爲には事變長期に亙るの建
前を以て之が對策の遺憾なきを期し、物
資及び資金の一般消費は成るべく之を減
少するに努むるの要緊切である。よつて
昭和十三年度度歳出豫算に於ては右の情
勢に對應し事變關係施設は出來得る限り
之が充實を期することとし、その他の諸
經費に至りては眞に緊急差し措き難きも
の外殆ど之が計上を見合はすこととし
た。又歳入豫算においては租税その他に

おいて經濟界の好況に伴ふ相當額の自然
増收を計上し歳入不足は公債財源を以て
補填することとし大體左記により昭和十
三年度豫算を編成した。

(一) 軍備擴充に關し必要の經費を計上
(二) 軍事扶助費の増加を始め事變關係
施設に要する經費を計上

(三) 防空に關する經費、農産資源開發
に關する經費、輸出増進に關する經費
液體燃料に關する經費、技術員養成に

關する經費、民間航空に關する經費等
現下の時局に鑑み緊要なる經費を計上

(四) 今次事變に伴ふ豫算超過又は豫算
外支出の必要に應ずる等の爲國庫豫備
金を増額

(五) 地方財政補給金は前年度と同額を
計上

(六) 一般新規經費の計上を抑制すると
共に既定經費節減を繰延

(七) 部隊及び艦船の出征等に關する經

費の臨時軍事費特別會計上に伴ひ陸海軍兩省所管既定經費に於て相當額を減少

尙帝國鐵道、通信事業及び外地各特別會計（南洋廳特別會計を除く）より臨時軍事費特別會計へ財源を繰入れる方針としたのでこれ等特別會計より一般會計への一般財源繰入は行はぬこととした。

昭和十三年度歳出豫算總額

（歳入） 改算前年度豫算總額

經常部 一、〇三三、〇〇六

臨時部 一、〇八一、四七三

普通歳入 一、五〇〇、〇〇〇

公債 六、四四、二〇〇

前年度剩餘金繰入 〇

計 二、六七七、六七二

（歳出）

經常部 一、六四〇、三三六

臨時部 一、三三七、三〇〇

計 二、〇一七、六三六

其の外略

金使用規則（大藏省令第六〇號公布施行）

新京滞在中の蒙疆代表徳王の一行は、よ／＼その重要使命を果したので二十八日日滿官民多數の見送りを受け歸國の途についた。

山西省の正太線南方に蟠居せる敗殘兵はその後共產軍の指導により漸次赤化し附近住民に暴行掠奪を行ひつゝあつたので我各部隊は附近一の共帯産軍、敗殘兵を掃蕩した、敵は死體千三百、負傷者約三千、多數の馬匹、小銃彈藥、迫撃砲を遺棄して潰走した、我軍には損害なく正太線附近一帶の共產軍は殆ど全滅。

十二月二十九日 外務省では伊國の滿洲國承認について左の如く當局談を發表した

伊國政府は客年十二月滿洲國政府に對する正式の手續を経て在奉天伊國總領事館を再開して右は同國承認の第一歩と見

られてゐたが今回正式承認の通告が行はるることになつたのは欣快の至りである。滿伊兩國間の正式外交關係の開始は實に滿伊兩國間の親善關係促進の見地より望ましきことであるのみならず、その有する政治的意義は更に大なるものがある。

防共の大目的のために固く握手したる日伊兩國の關係と日滿不可分の關係とを合せ考慮する時伊國が今回滿洲國を承認するに至つたことは自然の趨勢とも言ひ得るが右伊國の措置は現實の事態を無視する傾向ある國際聯盟等に對しては一大警鐘を與へたものと言へよう。尙帝國政府は既に昨年十二月三日在エチオピア公使館を廢し領事館を設置したがその時から伊國のエチオピア併合は帝國により承認せられてゐるのである。

新政府樹立を宣言する蒙古大會第二日において徳王は「蒙古聯盟自治政府の成立宣言文」を朗讀、次いで樂土建設方針

を明示せるの左政府組織大綱を朗讀して代表の賛否を求めれば滿場拍手を以て賛意を表し感激裡に蒙漢兩族の新政權は茲に完全に成立した。

政府組織大綱

第一條 蒙古聯盟自治政府の主権者を主席と爲す、主席は蒙古大會により德望高重にして且つ蒙古復興運動に大なる功勞あるものを推任す、主席は蒙古聯盟自治政府の主権者とす、主席事故ある時は副主席之を代行す

第二條 蒙古聯盟自治政府は蒙古固有の疆土を以て領域とし暫く烏蘭察布盟、錫林郭勒盟、伊克昭盟及び厚和(綏遠、歸化城の改名)包頭兩市を以てその統治區域とす

第三條 蒙古自治聯盟政府は共產防止、民族協和の施政基本となる生、粟、教、興、養、衛の大字を以て施政綱領と爲す

第四條 蒙古自治聯盟政府の旗章を藍地左上角に紅、黃、白縱列とす

第五條 蒙古の自治聯盟政府は成吉思汗紀元を以て年號と爲す

第六條 蒙古自治聯盟政府を厚和豪特に置く

第七條 蒙古自治聯盟政府その所屬地方機關の權限は掘衛の原則に基き別に法律を以て之を定む

第八條 蒙古自治聯盟政府の組織法は別に之に定む

昭和十三年一月一日 海軍報道部の發表

支那方面艦隊司令長官指揮下の我海軍部隊は引續き全支沿岸の支那船舶航行遮斷を嚴密に續行すると共に陸軍作戦に協力し上海附近の諸水路を啓開しその航空部隊は連日敵の據點及び移動兵力に對し極めて果敢にして有効なる銃爆撃を加へ更に遠く敵の背後軍事輸送線、兵工廠を爆破し又航空根據地を急襲し倍々戦果を擴

大しつゝあり、十一月中確實に撃破せる敵機の數は四三機にして「内譯撃墜七機、爆破三六機」此の間に於ける我海軍機の損害は九機なり。尙支那事變勃發以來の累計は左表通りなり

△事變發生以來我海軍の撃破せる支那飛行機數
確實なる 稍確實なもの 計
撃 墜 一九二 七 一九九

地上爆破 二一一 七 二二八
計 四〇三 一四 四一七
△事變發生以來の我海軍機の損害 六〇機

△事變發生以來我海軍における戦死者總數(十二月一日正午迄に判明せるもの)
准士官以上 一二〇名
下士官兵 七一五名

合計 八三五名
一月二日 小堀、片岡兩部隊の一部は錢淞江を差挾んで二千餘の敵部隊と對峙して

越年したが、一日午前七時兩部隊は初日の出と共に遙に東方を拜して萬歳を三唱同時に敵陣目寛けて一齊射撃を浴せかけた思ひがけぬ我が軍の猛撃に忽ち火災を起し狼狽する敵陣の大混亂を尻目にかけて部隊の一部は杭州に向つて進發、途中錢塘江北岸范村付近で頑敵を僅一時間にして撃破十二里の惡路を突破して一日午後一時半凱歌勇ましく杭州に入城した。

上海戦開始以來外國兵の警備區域となつてゐた邦人經營の日華紡、内外棉の紡績工場の警備は二日午前從前通り陸戰隊の警備に復したので陸戰隊では二日朝〇名の兵士が南京路を行進五ヶ月振りて同工場に入つた。

一月三日 山東の敗將韓復榘が皇軍飛行機の猛爆に恐れをなし泰山の山蔭に作つてゐたといふ洞窟が皇軍の泰安入城と共に發見され我が將兵を喜ばせてゐる。韓復榘は皇軍の飛行機の爆撃を非常に恐れ既

に昨年秋頃よりこのことあるを豫想して銀六千元を投じ泰山麓の一角に洞窟を掘らせ、いざといふ場合には何時でも逃げ込める様にしてゐたものだ。この洞窟の中には電燈を通じ食料品から日常生活必需品、娛樂品まで持ち込んで避難準備をさ／＼怠りなかつたが、皇軍の勇猛果敢な進撃に一たまりもなくこの娛樂室を利用する暇もなく敗走したのである。

杭州を放棄して退却した劉建緒及び強發奎の千數個師は年末以來錢塘江南岸地區に於て杭州逆襲の體勢を整へ時々我が部隊に射撃をなし殊に元旦及び二日には舟艇によつて百五六十名の敵兵が我宿營地を襲ひ來つたが殲滅的打撃をうけて敗退した。

三日濟南の各宗教團體を網羅する濟南宗教聯合會合では皇軍の入城を歓迎し市内治安の回復を祝するため五日各宗教團體の團員數百名を以て商埠地から城内に至

る一大示威運動を起すこととなつた。

一月四日 國內査金調査規則(大藏省令第一號)發布施行

桑田快速部隊の先發隊は四日午前九時兗州を占領し午後遂に入城した。

一月五日 揚子江北岸に上陸した安達、永津各部隊は大運河に沿ひ北進行動を續け二日には肝胎縣城を新年の血祭りにあげ五日早朝早くも其の前衛部隊は臨淮關に進出した。他方津浦線〇〇方面に前進中の田代、倉林の諸部隊は張八嶺を突破し早くも〇〇を確保した。

津浦線東側地帯を猛進しつゝある石田部隊は去る三日新泰を陥れて意氣軒昂、更に東南方に進み泰安、沂州間公路上の要地蒙陰に迫りつゝあり、同地方支那軍は我軍が一撃を加ふれば直に退却し殆ど無人の野を往くの概を以て慕進を續けて居る。

一月六日 わが杭州灣上陸〇〇部隊の戦致

將士慰靈祭は六日午後二時から杭州城内省立體育場で佛式により嚴かに執行された、各部隊長の焼香の後吹き鳴らす笛、ラツパの悲しき音と共に全軍拜禮して式を閉じた。

駐支米國大使館二等書記官バクストン氏は六日飛行機で祕かにワシントン着、海軍病院で爆彈破片による負傷の手當を受け國務省に出頭ヘル長官にパネー號事件遭難者としての報告をなしたが、バクストン氏は遭難當時の彈痕ある洋服そのままで出頭日本空軍の爆撃開始とともに艦上の全員は全滅を覺悟し沈着に應急手段を採つたこと日本空軍の爆撃の正確なることは最初の爆彈三個のうち二個はパネー號に命中し他の一つは艦側附近の海上に投下されたことによつても證明されると語つた。

一月七日 七日午前十一時頃敵の爆撃機隊は再度蕪湖の我が軍に對し空襲を敢行し

來つたが投下爆彈は何れも揚子江上又は蕪湖郊外の水田中に落下我が軍の飛行機に追捲られ這々の體で逃げ去つた、我が軍の損害皆無。

曲阜より姿を消した孔子七十七代の孫孔徳成氏の行方につき我軍で調査したところによると同人は去る二日蔣介石の使者と稱する者に拉致され漢口に連れて行かれたとのことである。

一月八日 事變以來休校状態のまゝにある北京各國立大學を速かに恢復するは文化の維持向上の上に絶対に缺くべからざるものとして臨時政府教育部總長湯爾和氏は就任以來熱心に復興計畫を進め、關係機關に對しこれが具體案作成を命じてゐたが、近く成案を得る運びとなつたので、國務會議の議決を経て、各大學、師範、専門學校などを開校し就學の途を開くととなつた。

南京に最後迄踏止まつてゐた米人十七

名は何れも無事なことが判明した。但し米人の所有財産は何れも殆ど掠奪の厄に遭つてゐないものはなかつたと米國々務省當局は發表した。

漢口よりの消息によると第三期抗戰遂行のため陣容整備に努めてゐる蔣介石は何應欽を大本營總參謀長に任命するに内定したといはれる。

蔣介石夫人宋美齡は愛國の女丈夫を氣取り長期抗戰の急先鋒となつて内外の宣傳戰に大童の活躍をしてゐるが最近ボストンの知人へ書翰を寄せ——日本は何時かはハワイを侵略してそこに根據地を設置し次いでカリフォルニアへ迄侵略の手を伸ばすだらう、日本の當面の野心は大陸帝國の建設にあるが窮極の目的は全アジアを征服して世界に君せ臨んとするにある然し支那は未だ曾て見ない團結振りを示して居り祖國防衛のため最後迄抵抗する覺悟である。——

前駐支英國大使ナツチブル・ヒューゲッセン氏は八日夫人を同伴ロンドンに歸還した。驛頭には帝國大使館參事官富井男以下官民多數が出迎へた。

一月九日 上海、南京間の鐵道はさきに一應開通となつたが鎮江トンネルは支那軍が退却に際して東側入口を粉碎、機關車二臺を顛覆埋没させてゐたので列車は應急的に迂回して假設されたレールを辛うじて走つてゐた、それが我鐵道部隊必死の復舊工事により八日午後三時開通九日午前零時南京下關驛發の第一列車から従來上海、南京間三十時間を要したものが僅に十五時間に短縮された。

一月十日 末次内相は明十一日厚生省が設置されることとなつたので總員を召集し社會局衛生局が内務省から分離するを以て一場の訓示をなした。

實に公衆衛生事務を主管する衛生局は明治六年文部省管轄から内務省に移轉さ

れ、同九年「内務省衛生局」と命名、從來六十三年間國民衛生の向上に貢獻して來たもの、社會局は大正六年八月内務省地方局内救護課として誕生、同八年社會課、同九年内務省社會局となり、二十二年間勞資の對立激しき時に處してよく協調を圖り、事變下に「軍事掩護部」を新設して統後國民の安定に努めて來たのである。この長い歴史を経てこゝに懐しの内務省と訣別することになつたものである。

青島港攻撃の我が海軍陸戰隊は十日拂曉より青島に向け敢然敵前上陸を敢行青島にあつた支那軍は早くも潰走して我軍の上陸に抵抗なく陸戰隊は青島港に上陸一部は已に市内に突入殘敵掃蕩中である我が陸戰隊に損害なし。

フランコ軍の勢力

フランコ將軍の精銳はいまやスペイン國土の三分の二を征服し、各州二千三百萬の人口中既に百六十萬人をその麾下に有するといはれてゐる、これに對し人民戰線側は辛うじて八十萬人であつて、彼等赤軍の偽りなき評價によれば、約七萬の外人部隊を加へても、尙且つ五十萬の兵力を出まいふことである。